



# 株式会社キャンバス

《証券コード4575》

## 会社ご紹介

プレゼンテーション  
代表取締役社長 河邊拓己



# 会社概要

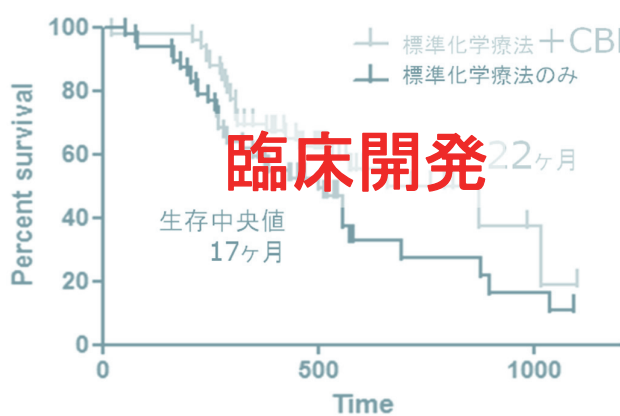
キャンバスは、自社創出の複数の臨床開発パイプラインを有する  
抗癌剤研究開発に特化した創薬企業です。

- 会社名 **株式会社キャンバス**  
          英文名: CanBas Co., Ltd.  
          証券コード: 4575
- 代表者 河邊 拓己 (代表取締役社長 M.D., Ph.D.)
- 本社 静岡県沼津市大手町2-2-1
- 設立年月日 2000年1月18日
- 事業内容 抗癌剤の研究開発
- 従業員 13名 (2018年6月末現在)  
          うち 研究開発部門 10名 (派遣社員1名含む)  
              管理部門 3名



## キャンバスの特徴と強み

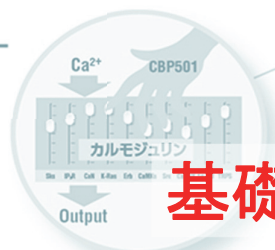
基礎研究と臨床開発のサイクル



**臨床開発**

作用メカニズム解析  
フィードバック

次の新薬創出



**基礎研究**



新たな  
臨床試験計画

臨床試験  
解析データ



# 開発パイプライン

	探索・創出	最適化	前臨床試験	臨床試験	提携・導出 共同研究
<b>CBP501</b>	Ph2終了			Ph1b (拡大相準備終盤)	
<b>CBS9106</b>	前臨床試験終了後導出			Ph1	米国 Stemline社
<b>CBP-A08</b>	最適化終了				
CBP-B					
IDO/TDO 阻害剤					静岡県立大
(ターゲット 非公表)					富士フイルム 他

# 臨床開発パイプライン

## CBP501

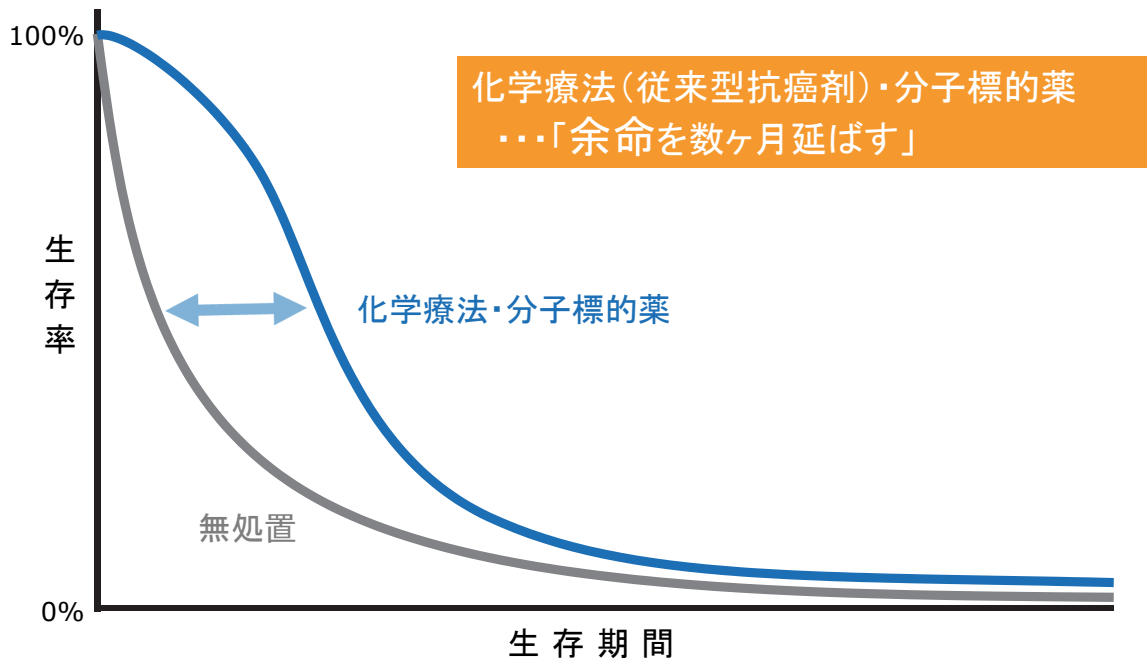
- 米国での自社臨床試験の進捗と初期成果
  - ✓ フェーズ1b試験前半(用量漸増相)終了
  - ✓ 複数の既治療歴のある患者群で16症例中5例(31%)の病勢コントロール
  - ✓ 膵臓癌・直腸大腸癌・卵巣癌・胆管癌などで有望な薬効の兆候
  - ✓ 2019年初頭までに拡大相開始(膵臓癌・直腸大腸癌各10例)
- **用量漸増相の好感触を踏まえ、新規提携獲得活動を活発に展開しています**

## CBS9106

- 提携先Stemline社による臨床試験の進捗
  - ✓ 臨床第1相試験 用量漸増試験進行中
  - ✓ 複数の既治療歴のある患者群で42症例中12症例(29%)の病勢コントロール
- **次相への進行とともに、血液癌対象や他薬剤との併用試験が計画されています**

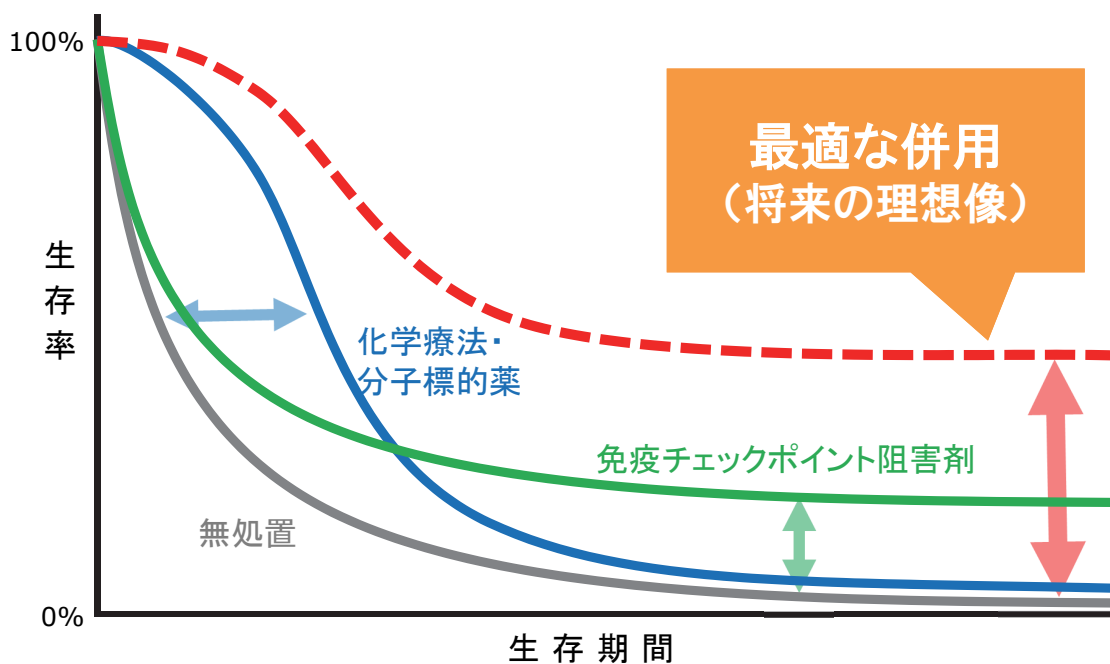
# 抗癌剤開発の環境変化

免疫系抗癌剤によるパラダイム転換



# 抗癌剤開発の環境変化

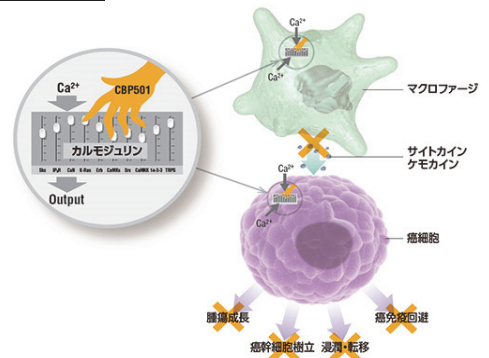
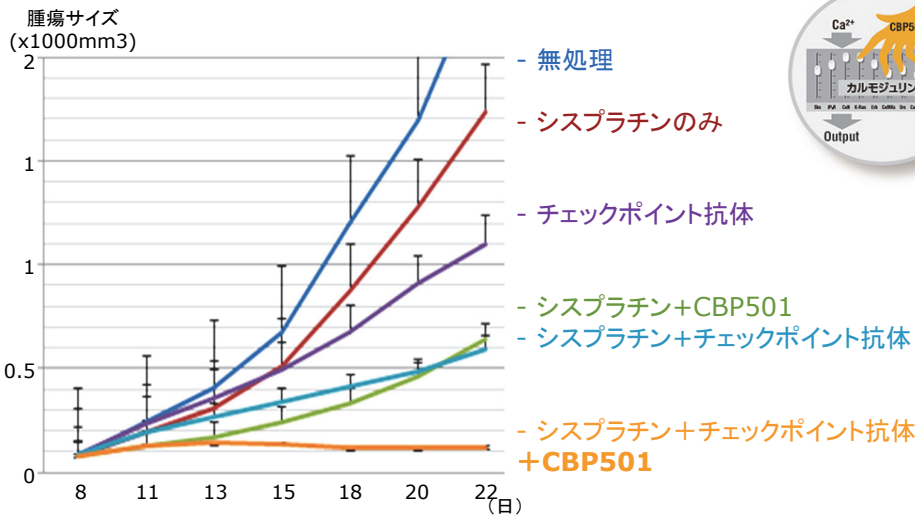
CBP501の目指す先



# 抗癌剤開発の環境変化

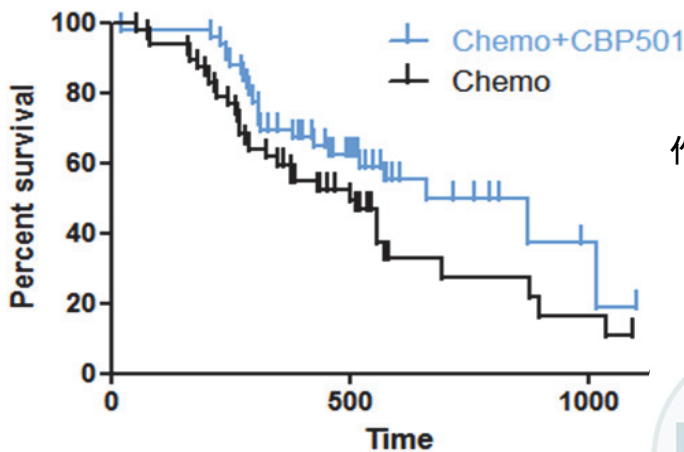
CBP501基礎データと環境の符合

CBP501+プラチナ系(従来型)抗癌剤の組み合わせは免疫系抗癌剤との併用で作用を増強する



# 研究と開発のサイクル

基礎研究・臨床開発の連携



作用メカニズム解析  
フィードバック



基礎研究

今回の  
臨床試験計画

臨床試験  
解析データ

# CBP501臨床第1b相

計画開始前のプレゼンテーション

## 良好な結果を得られる可能性

- ✓ ここまでの検証から、  
現在最良のデータを出している「免疫系+化学療法2剤」よりも  
「免疫系+化学療法1剤+CBP501」が良い結果を出す可能性は高いと  
考えられる

## 少ない症例数での設計が可能

- ✓ 免疫系抗癌剤早期臨床の特徴
- ✓ 他社のPh1~2でも、30症例程度のものが多い

→現在の手元資金ですぐにも試験開始が可能

## 期待する結果が得られたときの優位性

- ✓ 次の試験をピボタル試験とする展開の可能性
- ✓ 免疫系抗癌剤に大きくシフトしている大手製薬企業等の戦略との親和性
  - 提携魅力
  - 説得力

# CBP501臨床第1b相

計画開始前のプレゼンテーション

## 試験スケジュールの短縮効果

- 名称上は後退に思われるが、順調に進んだ場合の試験期間は  
今回フェーズ1b試験を実施することで**短縮**される

従来の計画  
化学療法±CBP501

Phase 2b 試験

- 100症例程度
- 3~4年

Ph3 ピボタル試験

- 300~500症例?
- 3~4年

新計画  
免疫系抗癌剤+  
化学療法+CBP501

Ph1

Ph1b試験

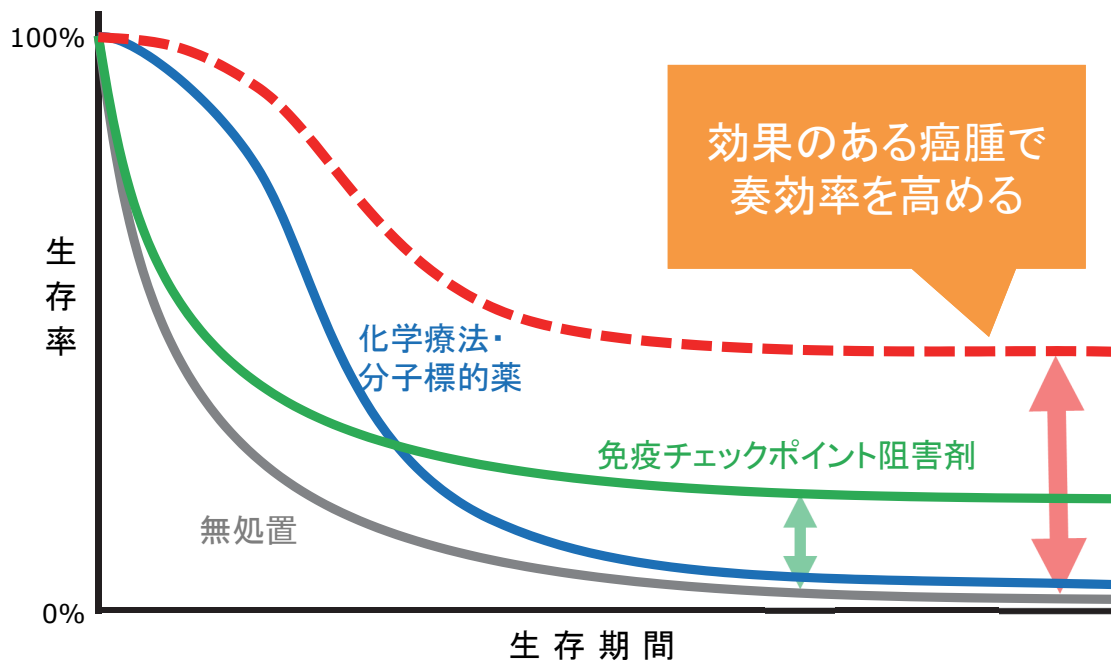
- Ph1/1bを合わせて
- 50症例程度
- 2~3年

Ph2/3 ピボタル試験

- 300~500症例?
- 3~4年

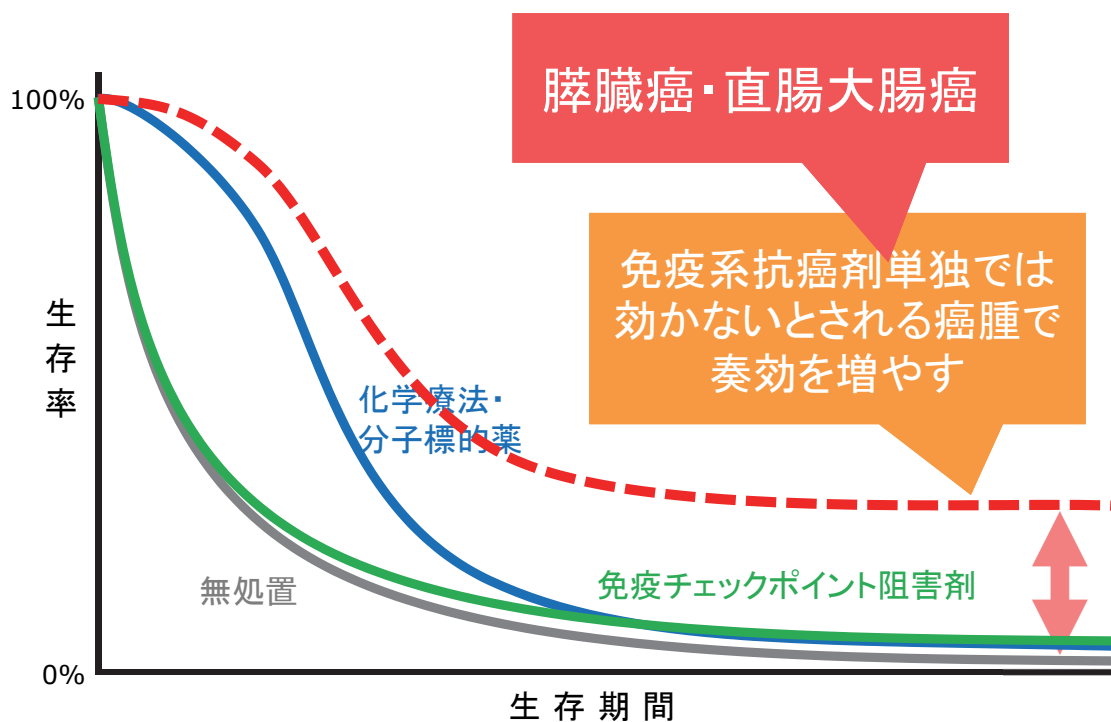
## 併用の可能性(1)

拡大相対象癌腫の判断



## 併用の可能性(2)

拡大相対象癌腫の判断





### 開始時期

- 実施サイトとの調整など若干の不確定要因
- 早ければ2018年中、やや遅れても2019年初頭の開始を見込む

### 対象癌腫

- 免疫系抗癌剤単独では効かないとされる膵臓癌・直腸大腸癌 各10例
- 10例中1~2例の病勢コントロール(CR・PR・SD)があれば十分に魅力的

### 不確定要因

- 被験者組入れペースは不透明・・・予想より速い・遅い両方あり得る
- 財務上の懸念
  - ✓ 新株予約権(発行済)による資金調達促進を図る

		探索・創出	最適化	前臨床試験
自社創出	CBP-A	CBP-A08		
	CBP-B			
外部との共同研究	IDO/TDO阻害剤			
	(ターゲット非公表)			

### ペプチド型化合物

- CBP-Aシリーズ → 最適化を終了したCBP-A08を獲得
  - ✓ TAT-S216~CBP501の系譜に属する発展型
- CBP-Bシリーズ
  - ✓ CBP-Aシリーズとまったく別の発想から作製したペプチド型免疫系抗癌剤候補

### 静岡県立大・富士フイルム・東京大学医学部附属病院との共同研究

- IDO/TDO阻害剤・その他の低分子化合物
  - ✓ 静岡県立大との共同研究
  - ✓ ファルマバレープロジェクトの有するライブラリからのスクリーニング
- 中分子化合物(ターゲット非公表)
  - ✓ 富士フイルムとの共同研究によるペプチドなど中分子による免疫系抗癌剤の探索・創出
- ヒト膵臓癌担癌モデルマウスを用いた薬効評価・新規抗癌剤探索創出
  - ✓ 東京大学医学部附属病院との共同研究

### CBP501

- 免疫系抗癌剤との併用によるフェーズ1b臨床試験前半で有望な薬効の兆候
- 後半の拡大相試験の対象は免疫系抗癌剤単独で効きづらい膵臓癌・直腸大腸癌
- 開発パートナーとなる製薬企業等との提携獲得を目指しています

### CBS9106

- 米国Stemline社が進める臨床第1相試験の進捗を支援していきます

### 後続パイプライン

- 引き続き新しい後続パイプラインの創出を目指しています

### 情報開示全般

- 適時開示やブログなど、機会を捉えて積極的に情報を公表していきます

引き続きキャンバスにご注目ください





株式会社キャンバス

#### ■ 将来見通し等に関する注意事項

本資料は、当社に関する情報の提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における将来予想・見通し等に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

業界等に関する記述につきましても、信頼できるとされる各種データに基づいて作成しておりますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。

本資料は、受領者がいかなる目的にご利用される場合においても、本資料受領者ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。

#### ■ お問い合わせ先

株式会社キャンバス管理部 IR担当

電子メール IR@canbas.co.jp

(本資料に関するお問い合わせは、電子メールの件名に「日本証券新聞セミナー問い合わせ」とご記載ください。)